

## 国立大学法人弘前大学学長の業務執行状況の確認について

令和4年11月22日  
国立大学法人弘前大学  
学長選考・監察会議

国立大学法人弘前大学学長選考・監察会議では、福田眞作学長の任期が2年を経過したことから、学長の業務執行状況の確認に関する基準（平成28年1月7日学長選考会議制定、令和4年1月27日改正）に基づき、令和4年7月22日に福田眞作学長に対して書面審査及び意見交換を実施し、業務執行状況の確認を行った。

福田眞作学長に対する業務執行状況の確認結果は、下記のとおりである。

### 記

福田眞作学長は、「国立大学法人弘前大学の将来構想と具体的方策」の実現に向けて優れたリーダーシップを発揮し、期待される業績をあげ、適切に業務を執行していると認められる。

学長選考・監察会議としては、福田眞作学長には就任以来実現してきた「国立大学法人弘前大学の将来構想と具体的方策」をさらに推進するべく、引き続き弘前大学長として諸課題に取り組んでいただくことを期待する。

以上

(別紙)

【学長選考・監察会議における主な所見】

- ・弘前大学が持つ大学の機能をさらに強化することは、青森県を中心とする地域を守り、地域の中核大学として国全体の発展を推進するものであるとの目標を掲げ、信念を持って果敢に取り組んでおり、アイデア・決断・実行力において期待される以上の業績を上げ、適切に業務を遂行している。
- ・入試改革による志願倍率のV字回復、県内就職志望率向上などの教育改革の効果、科研費採択額7億円の壁の突破、COISTREAM事業の推進、ICTやAIを活用した遠隔医療、科学的根拠に基づくがん検診推進事業の立ち上げ等高度な最先端医療及び地域医療の提供等、教育・研究・医療・地域貢献等において「望まれる学長像」を満たしており、「弘前大学の将来構想と具体的方策」に記載された7項目についても着実な進展が認められる。
- ・「日本一学生に優しい大学」をキャッチフレーズに掲げ、100円夕食・100円昼食弁当の提供、県内市町村と連携した食支援、大学コンソーシアム学都ひろさきの枠組みによる「大学発地域振興券」発行等による学生支援の充実、新型コロナワクチン職域接種の全国に先駆けた実施、オンライン授業への速やかな移行による学びの継続など、いずれも前例のないコロナ禍において、スピーディーで的確な判断力をもつ福田学長のリーダーシップにより実現できたことと評価している。
- ・COIの取組が国内の主要なイノベーションアワード三冠を達成し、国際的にも高評価を得ていること、コロナ禍における食支援や新型コロナワクチン職域接種が他の模範となる取組として文部科学省や多数のマスメディアに取り上げられていること、また「津軽賞」の全国公募により広く発信する等本学の知名度向上に積極的に取り組むことによって、受験生、マスコミ、企業、地域等多様なステークホルダーの注目度が高くなっていることは特筆すべきである。
- ・就任以来、弘前大学が地域貢献の役割を果たすために、教育研究、健康、地域連携及び医療などに関して、新型コロナ禍の中、リーダーシップを発揮し、明確なビジョンを示すことで全学的な合意を形成し、課題への的確な対処を実現している。今後とも学長としての弘前大学の組織改革と機能強化に期待する。